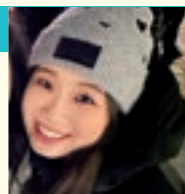


REPORT 1

留学先大学名

フランス・ESSEC Business School(商学部箇所間留学プログラム)

フランスでの学びと成長

■ 商学部2年
山崎 愛菜

私は2024年9月、2年生の秋学期より商学部箇所間留学プログラムを利用し、フランスのESSEC Business Schoolに留学しています。ケーススタディやフィールドワークを通じてマーケティングを実践的に学びたいという思いがあったこと、またEUという特異な経済・文化の中心地であり、伝統的な産業からラグジュアリー産業まで多岐にわたる分野が栄えるフランスで学ぶことで、多様な分野に興味を広げたいという考えから、この留学を決意しました。特にグランゼコールならではの専門的な教育を受けられることに加え、各分野に特化した授業が豊富であることからESSECを選びました。

ラグジュアリーブランドに焦点を当てた授業でケーススタディ等を通じて学ぶ中で、ブランド戦略を研究テーマの選択肢の一つとして考えるようになりました。また、教授陣の多くが実際にラグジュアリーブランドに関わる仕事を経験しており、実務に基づく経験談を交えた講義は非常に刺激的です。こ

れにより、自分のキャリアについて具体的に考えるきっかけが増えたと感じています。

実際の留学生活は、一筋縄ではいかないことがたくさんありますが、毎日刺激的な日々を過ごしています。発言を求められる機会の多さや、授業中に課題が与えられ、即スライドを作成してプレゼンテーションを行うことが求められるなど、これまでに経験したことのない授業スタイルに最初は戸惑いました。また、周りは既に長期インターンシップを経験している学生が多く、英語力に加えて専門知識の不足に焦りを感じることもありましたが、ESSECで出会った友人の助けもあり、授業を楽しめるようになりました。グループワークに関しては、これまで経験がなかったことに加え、異なるバックグラウンドを持つ学生との協同作業であり、想像以上で大変でした。特に8人という大人数のグループでの課題では、なかなか進まず苦労しましたが、グループを引っ張り、プロジェクトを完成させることができたことで、一つ

成長できたように感じました。そして、グループワークを通じて新しい友人ができたことは、この経験の大きな収穫の一つです。

フランス国内でも地域ごとに異なる雰囲気があるうえに、8カ国に面しているため、週末や長期休暇を利用して簡単に様々な地域や国を訪れることができます。授業での学びに加え、旅行を通じて各国や各地域の文化や歴史の違いを肌で感じることができたことは、非常に貴重な経験となりました。

留学を考える際、不安に感じることも多いかもしれません。私も、初めての一人暮らしが海外の大学寮という状況で最初は不安ばかりでした。しかし、同じ寮に住む留学生と集まったり、生活のコツを教え合ったりする中で、少しずつ新しい環境に馴染むことができました。もし留学に興味を持っている方がいれば、まずは話を聞いてみるなどして、ぜひ一歩を踏み出してみてください。楽しいことばかりではないかもしれませんが、その全てがかけがえのない経験になるはずです。

REPORT 2

留学先大学名

ボッコニーニ大学(商学部箇所間留学プログラム)

留学を通じて広がる世界

■ 商学部2年
中本 有亮

私は商学部箇所間留学プログラムを利用し、2024年度秋学期から1年間、ミラノにあるボッコニーニ大学へ留学をしています。

私が初めて海外に興味を持ったきっかけは、中学1年生の時にしたアメリカ旅行です。当時、英語をほとんど話せなかった私は、「いつか英語を流暢に話せるようになりたい」と強く思い、その思いが留学への憧れへと繋がりました。大学の充実した留学制度を活用し、今回念願の長期留学を実現することができました。当初は英語圏への留学を考えていましたが、授業が英語で受けられるという条件のもと、今まで訪れたことのなかったヨーロッパを留学先として選びました。EU圏内では複数の国を気軽に訪れ、さまざまな文化を体験できることや、洗練された芸術やデザインに触れられることが魅力でした。ヨーロッパの数ある選択肢の中でも、ファッションの中心地であるミラノで、ファッションブランドの経営に関する講義など興味深い授業が受けられるボッコニーニ大学を選びました。

留学を通じて、私は教養の大切さを再認識するとともに、言語や文化が異なる環境でもやっていけるという自信を得ました。

たとえばヨーロッパの美術館でレオナルド・ダ・ヴィンチの作品を見る際、彼の科学主義的思想を知っていると、神を描く際に他の画家のような虹色の羽ではなく、鳥の羽を使った理由が理解できます。知識があることで、自分なりに何倍も楽しむことができます。歴史・文化・芸術があふれる欧州で、五感を活かし、幅広い教養を身につける喜びを実感し、さまざまな分野への学びの原動力になっています。

留学当初は文化や価値観の違いに戸惑うことも多くありました。交通機関のストライキによる運休や大雑把な窓口対応など、日本では想像できない出来事に驚きました。しかし、現在ではそれらを文化の違いとして受け入れるようになり、大小さまざまなトラブルを冷静に判断し対応する力が身につきました。また、私はミラノの中国人経営

の日本食居酒屋でアルバイトをしています。お店はいつも満席で、日本文化に興味を持つ人々の多さを目の当たりにし、日本人として誇りを感じています。日本の魅力をもっと伝えたいという気持ちがイタリア語学習への意欲に繋がり、お店での出会いをきっかけに交流を続けている方もいます。

こうした多様な経験を通じて、異なる言語や文化の中でも自ら道を切り開いていく覚悟と自信を得ることができました。

イタリアにきてまだ3か月ほどですが、随分と視野も広がり、これまで気付かなかった物事への感じ方や楽しみ方が磨かれました。さらに、広がった視野は人への共感力や寄り添う力も高めたように思います。留学は視野を広げる絶好の機会です。そしてそれは、大学生の今だからこそ挑戦できることです。もし留学を迷われている方がいれば、ぜひ一歩踏み出してみてください。その一歩があなたの人生に新しい視点をもたらしてくれると確信しています。

※学年は執筆時点の学年です。